

ワークシートと年間指導計画

★ ワークシートは、世羅町教育委員会の平成22年度年間指導計画に準拠しています。

学年	ワークシートの題目と内容	教科・学期と単元・題材
小1	1. はるのしぜんとあそぼう 自然の物（タンポポ、フキ、ヨシ）を使った遊び	生活科 1学期 あそびばへいこう
	2. はなびらは、なんまいかな？ 植物の観察とスケッチ	生活科 2学期 ぐんぐんのびろ
	3. あきのしぜんとあそぼう 自然の物（ササ、カエル）を使った遊び	生活科 2学期 あきになったね
小2	4. ヤゴをそだてよう 動物の観察、ヤゴの飼育方法	生活科 1学期 げんきにそだて
	5. オタマジャクシをそだてよう 動物の観察、オタマジャクシの飼育方法	
小3	6. ヤゴの体のつくりとくらし ヤゴの体の形と食べ物との関係	理科 2学期 こん虫の体のつくりとくらし
	7. トンボの体のつくり トンボの体の色や形、トンボの分類	
	8. 見つかりにくいすがた 昆虫、カエルの体の色や形	
小4	9. 調べよう せらのカエルたち カエルの活動と温かさとの関係	理科 通年 生き物のくらし
小5	10. ウキクサのふしぎ 植物の成長	理科 1学期 植物の発芽と成長
	11. イネを育てよう 植物の発芽、成長、結実	
小6	12. ため池の生物のつながり ため池に生きるカエル、トンボ、水草の関係	理科 1学期 生物と環境
中1	13. 水生植物を調べよう 植物の体のつくり、植物の分類	理科 1学期 植物のなかま分け
中2	14. オタマジャクシからカエルへ 動物の変態、オタマジャクシとカエルの体のつくり	理科 1学期 いろいろな動物

自然の中に出かけよう！

ねらい

ワークシートを使った学習は、子どもたちがせらの豊かな自然に触れ、動物や植物を観察し、観察したことから気付きや考えを広げること、深めることをめざしています。したがって、学習を進めるにあたっては、子どもたちと一緒に野原に行ったり、水辺に行ったりする機会を持つことが求められます。

「自然の中に出かけよう！」のワークシートでは、まず、自然体験学習に必要な服装、持ち物、注意事項について述べています。つづいて、生き物と接するときの心構えとして、動物や植物とのかかわり方について述べています。全学年の事前学習として、このワークシートを活用してください。

児童・生徒用ワークシート

自然の中に出かけよう！

ワークシートを使った学習では、野原に行ったり、水辺に行ったりします。まず、服装、持ち物、注意事項について、確認しましょう。



服装

- 長そで、長スボンの服を着る。
- 帽子をかぶる。
- 運動ぐつ、あるいは長ぐつをはく。

持ち物

- 虫眼鏡、双眼鏡。
- ワークシート、筆記用具、デジタルカメラ。
- 捕虫網、たも網、ざる、採集した生物を入れる飼育ケース。

注意事項

- がけや深い池など、危険なところに注意する。
- スズメバチ、ムカデ、マムシなど、危険な動物に注意する。
- ハゼノキ、ツタウルシなど、触るとかぶれる植物に注意する。

つぎに、生き物とのかかわり方について、確認しましょう。



植物とのかかわり方

- むやみにとらない。
- 草花を踏み荒らさない。
- 木の実などを、先生の許可無く、食べない。

動物とのかかわり方

- むやみにとらない。
- 強く握るなど、動物の体を傷つけない。
- 観察が終わったら、もとの場所に逃がす。移動させて、別の場所に逃がしてはいけません。

- 2 -

服装、持ち物、注意事項

安全の確保が最も重要です。そのために指導者にとって必要なことを、以下に挙げます。

服装

- 子どもたちが認識しやすい目立つ服装。

持ち物

- ホイッスル。 ■ 応急救護セット。
- 携帯電話。
- 緊急時の連絡網のメモ。
- 病院、保健センターの連絡先のメモ。
へび毒の血清の有無を事前に確認する。

注意事項

- 活動場所に立ち入り可能か、生物の採集が可能か、事前に確認する。
- 活動場所を事前に訪れ、危険なところ、危険な動物、触れるとかぶれる植物などについて確認する。
- 活動場所で出会う地域の人にあいさつする、大声を出さない、ゴミを捨てないなど、マナーを守る。
- 活動場所は、指導者の目の届く範囲とし、その範囲を明確に指示する。
- 活動を始める前に、集合の時刻、場所を明確に指示する。

生き物とのかかわり方

生命愛護と環境保全の立場を尊重して、生き物とかがわる必要があります。

- 植物や動物の採集は自然に親しむための第一歩。しかし、むやみに採集することは、生物の命、あるいは生物の成長やくらしを軽視した行動である。節度ある採集を心掛けなければならない。
- 草花を踏み荒らしたり、不用意に動物の体を傷つけたりすることも、慎まなければならない。特に昆虫を扱うときには、羽や脚にダメージを与えないようにする。カエルに触れるときには、皮膚の粘膜を損ねないようにするため、手を水で濡らす。また、手のひらの熱で弱らないようにするため、長時間持たないようにする。
- 外来種であるウシガエルやアメリカザリガニ、ブラックバス、ブルーギルなどは生態系を破壊するので、絶対に移動させてはいけません。